

# CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)株式会社 阪村機械製作所	階数	地上3F
建設地	京都府久世郡久御山町下津屋富	構造	S造
用途地域	工業専用地域、防火地域指定なし	平均居住人員	242 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,400 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年11月 予定	評価の実施日	2022年1月16日
敷地面積	1,790 m <sup>2</sup>	作成者	針崎昌彦
建築面積	903 m <sup>2</sup>	確認日	2022年1月17日
延床面積	2,343 m <sup>2</sup>	確認者	中野孝之



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (138 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み 82% (46 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

③上記+②以外の 72%

④上記+ 72%

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア= 2.9

#### Q1 室内環境 Q1のスコア= 2.6

#### Q2 サービス性能 Q2のスコア= 2.9

#### Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア= 3.1

LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 3.7

#### LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.3

#### LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.4

#### LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.4

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。主要給排水配管は耐用年数が高い材料を使用している。ライフサイクルコストの低減に努め、地球環境保護に配慮している。		<b>その他</b> 特になし。
<b>Q1 室内環境</b> 開口部遮音性能: T-2以上。 JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。 自然換気有効開口面積が居室床面積の1/30以上。	<b>Q2 サービス性能</b> 事務室の天井高2.9m以上。 階高: 3.9m以上。 0.1 ≤ [壁長さ比率] < 0.3。	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> 外構に緑地を計画している。
<b>LR1 エネルギー</b> BPI <sub>m</sub> = 0.78 BEI <sub>m</sub> = 0.62	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 節水コマなどに加えて、省水型機器 (節水型便器) を用いている。 LGSとOAフロアを使用している。 ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	<b>LR3 敷地外環境</b> ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率が、一般的な建物に対して72%。 屋内照明のうち外に漏れる光への対策している。また、広告物照明は行っていない。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される